

新愛知県がんセンター整備基本計画に基づく機能別病床数の変更について

1 現状と課題

- ・愛知県の2023年のがんによる死亡数は死亡総数の約25%
- ・高齢者人口の増加に伴い、愛知県のがん患者数は2040年にかけて増加の見込
- ・愛知県がんセンターの主要な建物は築30年余りが経過し、老朽化
- ・入院から外来へのシフトなど最新のがん医療を取り巻く状況への対応が困難

2 新愛知県がんセンターに備えるべき機能

(1) 新規機能

- がん予防医療研究センター(仮称)の新設
 - ・遺伝性腫瘍などを対象とした高度な技術による検診の実施
 - ・病院と研究所が一体となり、新たな予防・診断法を開発・提供
- 緩和ケア病棟の新設
 - ・緩和ケア病床の少ない名古屋市東部地区の病院として緩和ケア病棟を設置
 - ・がん診断時からの一貫した緩和ケア(緩和医療)の提供
 - ・地域と連携した緩和ケアモデルを構築し、専門人材を育成

(2) 強化・推進する機能

- 病院機能
 - ・がんゲノム医療・細胞療法の充実・強化、難治がん・希少がん医療の集約化、治験・臨床試験の推進、相談・支援の充実・強化など
- 研究所機能
 - ・橋渡し研究の推進、がん予防・疫学研究の推進、がん情報ネットワークの形成

(3) 機能・規模

項 目	現 状	整備後	増 減	増減理由
診療科目	27 診療科	27 診療科	増減なし	愛知県のがん診療の中核拠点として、引き続き幅広いがん領域に対応
病床数	500 床	410 床	△90 床	入院から外来へのシフト、平均在院日数短縮への対応
うち緩和ケア病床	—	20 床	+20 床	名古屋市東部地区に少ない緩和ケア病床への対応
手術室数	10 室	12 室	+2 室	がん患者の増に伴う、手術件数の増への対応
診察室数(一般外来用)	52 室	60 室	+8 室	がん患者の増に伴う、外来件数の増への対応
外来化学療法ベッド数	60 ベッド	60 ベッド	増減なし	外来化学療法患者の増に、現状より効率的なベッド運用で対応

3 地域医療構想を踏まえた役割機能(機能別病床数)

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
構想区域全体 (床)	2023 年度実績	6,091	7,277	3,093	3,799	441
	2025 年度見込	6,086	7,325	3,221	3,642	50
	2025 年度必要量	2,885	8,067	7,509	3,578	—
当該病院 (床)	2023 年度実績	8	492	0	0	—
	2025 年度見込	8	492	0	0	—
	2034 年度見込	10	400	0	0	—

※高度急性期の増床は I C U 8→10 (がん患者の増に伴う、手術件数増への対応)

4 整備スケジュール(想定)

2025 年度	P F I 調達準備
2026 年度	入札公告、落札者決定
2027 年度～2028 年度	基本設計及び実施設計
2028 年度末頃	工事着工
2034 年度	新病院棟オープン
2038 年度	新研究棟オープン

5 その他

公立病院経営強化プラン(病院事業中期計画2023)の計画期間は2023～2027年度であり、機能別病床数の変更は、新病院棟オープン予定の2034年度を見込んでいることから、現計画期間外であり、プランの変更は行わない。

なお、次期公立病院経営強化プランを策定する際は、今回地域で合意した内容を踏まえ、改めて協議を行う。

第五 ガイドラインに基づく検証と取組

1 役割・機能の最適化の検証

(1) 地域医療構想を踏まえた役割機能の検証（機能別病床数）

ア がんセンター

都道府県がん診療連携拠点病院、がんゲノム医療拠点病院として、地域の医療機関と機能分担し、県内の中核機関としての役割を果たしており、県全域から患者を受け入れ、高度・先進的な医療を提供している。

構想区域の状況（名古屋・尾張中部構想区域）

		高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等
構想区域全体（床）	2021年度実績	5,954	7,542	3,267	3,743	566
	2025年度見込	6,012	7,393	3,451	3,637	221
	2025年度必要量	2,885	8,067	7,509	3,578	0

出典：「愛知県における医療機能ごとの病床の状況」（愛知県）

がんセンターの病床数

		高度 急性期	急性期
がんセンター（床）	2021年度実績	8	492
	2025年度予定	8	492
	2027年度予定	8	492

新愛知県がんセンター整備基本計画

2025年3月

「新愛知県がんセンター基本構想」及び基本構想策定後の調査検討を踏まえ、以下のとおり「新愛知県がんセンター整備基本計画」をとりまとめたので公表する。

I 現状と課題

- ・ 愛知県の2023年のがんによる死亡数は死亡総数の約25%
- ・ 高齢者人口の増加に伴い、愛知県のがん患者数は2040年にかけて増加の見込
- ・ 愛知県がんセンターの主要な建物は築30年余りが経過し、老朽化
- ・ 入院から外来へのシフトなど最新のがん医療を取り巻く状況への対応が困難

II 新愛知県がんセンター基本構想

将来のがんセンターの整備に向け、必要となる機能などについて検討するため、2023年7月から有識者会議を設置。

その検討を踏まえ、2024年4月に「新愛知県がんセンター基本構想」を策定。

<新愛知県がんセンター基本構想(抄)>

1 基本方針

- ・ 新愛知県がんセンターを病院と研究所が一体となって、次代のがん医療・予防の研究開発や、最先端のがん医療の提供を行う県内の中核拠点とする。
- ・ 日本のがんセンターの地域モデルとして、広く地域に開かれた医療機関となり関係機関との密接な連携を通じて県民に最良のがん医療を提供するとともに、県民の為に愛知県内のがん医療の均てん化と高度化を推進する。

III 新愛知県がんセンターに備えるべき機能

2024年度は「新愛知県がんセンター基本構想」を踏まえ、都道府県がん診療連携拠点病院の新愛知県がんセンターが備えるべき具体的な機能について、更なる検討を実施。

1 病院機能

(1) 新規・強化・推進する機能

- ア がん予防医療研究センター(仮称)の新設【新規】
 - ・ 遺伝性腫瘍などを対象とした高度な技術による検診の実施
 - ・ 病院と研究所が一体となり、新たな予防・診断法を開発・提供
- イ がんゲノム医療の充実
 - ・ がんゲノム医療拠点病院として、全国トップレベルのがんゲノム医療を提供
- ウ 治験・臨床試験の推進
 - ・ 早期第Ⅰ相治験を含めた、県民に提供できる治療選択肢の拡充
 - ・ どこにいても新しい薬剤治療が受けられるリモート治験の推進
- エ 難治がん・希少がん医療の集約化
 - ・ 難治がん・希少がんの集約化を図り、高度な集学的治療を強化
 - ・ 次の時代の難治がん・希少がん医療の開発を推進
- オ 放射線治療・薬物療法・手術療法の充実
 - ・ がん専門の特定機能病院として、高度で最先端のがん医療の開発と提供
- カ 細胞療法の充実・強化
 - ・ 各種難治がんへの応用が期待される細胞療法の開発及び提供体制の強化
- キ 緩和ケア病棟の新設【新規】
 - ・ 緩和ケア病床のない少ない※名古屋市東部地区の病院として緩和ケア病棟を設置
 - ・ がん診断時からの一貫した緩和ケア(緩和医療)の提供
 - ・ 地域と連携した緩和ケアモデルを構築し、専門人材を育成

ク リハビリテーションの充実

- ・ 身体機能を維持しながら高度ながん治療を受けるためのがんリハビリテーションを提供

ケ 相談・支援の充実・強化

- ・ 地域の医療機関や行政などと連携した、相談・支援体制の強化
- ・ 相談支援、入退院支援、地域連携、ベッドコントロール機能などの一体化

(2) 基本的な機能・規模

項目	現状	整備後	増減	増減理由
診療科目	27診療科	27診療科	増減なし	愛知県のがん診療の中核拠点として、引き続き幅広いがん領域に対応
病床数	500床	410床	△90床	入院から外来へのシフト、平均在院日数短縮への対応
うち緩和ケア病床	—	20床	+20床	名古屋市東部地区には無い少ない※緩和ケア病床への対応
手術室数	10室	12室	+2室	がん患者の増に伴う、手術件数の増への対応
診察室数(一般外来用)	52室	60室	+8室	がん患者の増に伴う、外来件数の増への対応
外来化学療法ベッド数	60ベッド	60ベッド	増減なし	外来化学療法患者の増に、現状より効率的なベッド運用で対応

※ 2025年4月から、聖霊病院が緩和ケア病棟を再開

2 研究所機能

ア 橋渡し研究の推進

- ・ 病院と密接に連携し、革新的ながん医療の創出につながる橋渡し研究を推進
- ・ 医療現場に還元できる超早期診断法やゲノム創薬、免疫療法等の開発

イ がん予防・疫学研究の推進

- ・ 国内有数の拠点として予防医療の社会実装につながるがん疫学研究の推進
- ・ 生活習慣やゲノム情報とAIを活用した個別化がん予防モデルの研究開発

ウ がん情報ネットワークの形成

- ・ 愛知県内のがん診療連携拠点病院と情報基盤を構築し、医療情報を集約
- ・ 県内のがん医療レベル向上や効果的ながん対策施策の支援を実施

3 外部機関との連携・協力

ア 国内のがん医療機関との連携・協力

- ・ 「名古屋大学・愛知県がんセンター 高度がん研究アライアンス」への積極的な取組
- ・ 医療技術者の交流、研修派遣等の実施

イ 異分野融合研究を含む共同研究の推進

- ・ 名古屋大学の理学、工学、情報系分野等との連携による破壊的医療イノベーションの創出
- ・ スタートアップ企業を含む外部研究開発機関との共同研究による医療産業の育成

ウ 海外のがん医療機関等との連携・協力

- ・ MDアンダーソンがんセンターとの共同研究、人材交流等の実施
- ・ 国際共同研究・国際共同治験への参画・推進

IV 部門別計画

病院21部門、研究所3部門、共通1部門について、各部門の果たすべき役割や必要な取組のうち、主要なものについて整理。

病院	果たすべき役割	必要な取組
外来部門	・がん医療の入院治療から外来治療への移行等による外来患者増への適切な対応 ・最先端の薬物療法の安全な提供、治験等の積極的な実施 ・病院と研究所が一体となった次代のがん予防や超早期診断の開発・提供	・リモート治験を含めたリモート診療、医療機関からの相談体制の強化 ・薬物療法の実施体制の適正化、ベッドコントロールの効率化 ・疫学情報やゲノム情報などを活かした、がん予防医療研究センター（新設）受診者に最適な医学管理・指導
病棟部門	・病態に応じた最適な高度・先進的な医療の提供	・セキュリティやプライバシー、感染対策などに配慮し、病棟の個室化を推進 ・IT技術等を用いて、安心・安全で効率的な患者管理を実施
手術部門	・他施設では対応困難な高度な手術、集学的治療が必要な手術の集約化	・難治がん等の手術体制の強化
集中治療部門	・高度ながん治療に係る手術周術期管理の実施	・高度・先進的ながん治療・周術期管理を行うための設備の充実
薬剤部門	・先進的で高度な薬剤管理の提供、薬物治療の質の向上	・病棟の患者相談への積極的な関与、IT技術を活用した外来薬物療法患者のモニタリング
臨床検査部門	・精度の高い臨床検査の実施	・高度ながん診断検査技術（希少がん、がんゲノム医療等）の充実
内視鏡部門	・高度な内視鏡診断・治療の提供、低侵襲治療の開発・推進	・消化管がん、膵がんの早期診断・治療の開発・推進、AIなど先端診断技術の活用
放射線検査部門	・高度な放射線画像診断の提供	・放射線検査機器と超音波検査機器の集約、診断の補助としてAIなどの技術の活用
放射線治療部門	・高度な放射線治療の提供	・IMRTの適応疾患拡大による、より高精度な治療の普及
リハビリテーション部門	・身体機能を維持しながら高度ながん治療を受けるためのリハビリテーションの提供	・急性期リハビリテーションの強化、治療前からの介入による円滑な社会復帰のサポート
臨床工学部門	・高度専門医療機器の操作・管理の実施	・医療機器管理のセンター化による機器管理の効率化
緩和ケア部門	・身体的、精神心理的・社会的な苦痛全般に対する充実した緩和ケアの提供	・診断時から治療期、終末期にかけて一貫した外来・入院での緩和ケアの実践（病棟新設）
がんゲノム医療部門	・がんゲノム医療拠点病院として、質の高いがんゲノム医療の提供	・エキスパートパネルの継続・推進
治験・臨床試験部門	・薬事承認等を旨とした臨床試験・治験の積極的な実施	・早期開発段階の治験を含めた治験実施体制の強化
入退院支援・医療連携／社会的相談・患者支援部門	・地域の医療機関とのシームレスな連携、スムーズな入退院準備の支援及び治療と仕事の両立や就労などに関する相談支援	・入退院支援・医療連携部門と社会的相談・患者支援部門の一体化及び院内各部門との協働による、有機的・効率的な相談・支援の実施
医療情報部門	・医療情報システムの安全管理に関するガイドラインに準拠した運営、がん登録・DPCデータの有効活用	・高度な安全性を担保したシステム・ネットワークの保守管理、がん登録・DPCデータの管理・分析
医療安全部門	・高度な医療安全の充実強化	・医療安全管理室のスタッフ、設備の充実
材料供給・管理部門	・医療消耗品の供給、在庫管理、購入、保険請求などの効率的な一括管理の推進	・院内物流管理システム（SPD）を活用し、適正な在庫管理を実施
給食栄養管理部門	・的確な栄養管理・栄養指導の実施	・管理栄養士による栄養管理・栄養指導業務の充実強化
希少がん医療部門	・都道府県がん診療連携拠点病院として、希少がんの集約化と県民への情報発信	・一般病院では対応しづらい希少がんの薬物・外科治療の強化
感染制御部門	・がん治療を継続しつつ、感染症治療の確実な実施	・発熱・感染症外来の設置、運営
研究所	果たすべき役割	必要な取組
研究部門	・革新的ながん医療の創出につながる橋渡し研究の推進とイノベーションの創出 ・がん対策に有用な情報の可視化、科学的根拠に基づくがん対策の施策立案への貢献 ・名古屋大学とのアライアンスの展開、民間への技術導出による産業育成への貢献	・大規模・複雑化するデータを高速で解析可能な環境の整備 ・センターとの相乗効果が期待できる研究開発を行う研究機関・企業の誘致 ・オープンラボや試料・情報共有による、一体的かつ効率的な疫学・橋渡し研究の推進
研究支援部門	・次世代のがん予防、診断、治療法の研究開発に有用な試料・情報の収集、適正な保管管理 ・最先端のがん研究に必要な設備・機器等の適正な管理・運用	・資料・試料の付加価値を高める診療録情報とのデータ統合が可能なシステムを運営 ・がん研究の高度化に対応可能な設備・機器等の計画的な導入及び効率的な管理
がん対策支援部門	・県内連携拠点病院のがん医療レベル向上や効果的ながん対策施策に資する支援の実施	・県内連携拠点病院の様々ながん診療関連データや、がん登録情報の管理・蓄積、解析及び結果のフィードバック
共通	果たすべき役割	必要な取組
管理部門	・総合がんセンターの円滑な運営に向けた万全のサポート	・各業務への積極的な民間活力の導入

V 医療DX・スマート化計画

- ・ DXによりビッグデータを用いた医療情報共有・解析等の基盤を構築
- ・ 問診、受付等にDXを活用し、患者サービス向上や正確でスピーディーな診療を実現
- ・ 画像や検査データなどのパーソナルヘルスレコードを患者自身と共有できる体制を構築
- ・ 県内のがん診療連携拠点病院等のDPCデータやがん登録情報を解析し、各病院に還元
- ・ 先進的な診療情報管理システムの導入により、働き方改革への対応を強化
- ・ 地域連携医療機関との診療情報の双方向のリアルタイムな共有を推進

VI 整備計画

新愛知県がんセンターの整備計画を以下の通り想定した。なお、実際の整備については、今後の更なる検討及び民間事業者からの提案を踏まえて、内容が決定されるものであり、計画上の記載に限定されることはない。

1 整備用地

現地での建て替え整備を実施

2 計画規模

項 目	現 状	整備後	増 減
延床面積(付属棟は除く)	63,268㎡	60,000㎡	△3,268㎡
(以下、再掲)			
病床数	500床	410床	△90床
うち緩和ケア病床	—	20床	+20床
手術室数	10室	12室	+2室
診察室数(一般外来用)	52室	60室	+8室
外来化学療法ベッド数	60ベッド	60ベッド	増減なし

3 整備計画検討の基本方針

- ア 愛知県のがん医療をけん引する中核拠点
- ・ ハイボリュームながん医療・がん研究拠点として必要十分な施設規模を確保
 - ・ 地域をけん引する先進施設として高度な先端医療施設を整備
- イ 病院と研究所が一体となった総合がんセンター
- ・ 臨床と研究の効率的な連携推進をサポートできるよう、合理的に施設を配置
 - ・ がん医療と予防におけるイノベーション創出に対応できる柔軟なフロアプラン
- ウ 患者家族を支え地域周辺に配慮した優しいがんセンター
- ・ 現地建替を踏まえ、現況施設や周辺住居に配慮したスムーズな建替計画
 - ・ 医療DX技術により患者家族をサポートし、利便性の高いスマート化を推進
- エ 経済性に配慮したシンプル・コンパクトな病院づくり
- ・ コスト削減に配慮した施設整備を検討
 - ・ 省エネルギーによる環境保全と効率的な運営によりランニングコストを低減
- オ 災害時にも機能する非常時に強い病院づくり
- ・ BCPを踏まえた災害に強い施設
 - ・ 新興感染症のパンデミック時にもがん治療を継続できる個室率の高い病棟

4 建物規模

- ・ 新病院棟
延床面積 50,200㎡ (現状 50,795㎡)
- ・ 新研究棟
延床面積 9,800㎡ (現状 12,473㎡)

※ 延床面積には院内保育所など付属棟の面積は含まず

5 整備手法

- ・ 建て替えにPFI手法を導入し、発注を効率化
 - ・ 病院部門の運営にもPPP手法の導入を検討
- ※ PPP/PFIの事業範囲については、今後検討

6 整備スケジュール(想定)

2025年度	PFI調達準備
2026年度	入札公告、落札者決定
2027年度～2028年度	基本設計及び実施設計
2028年度末頃	工事着工
2034年度	新病院棟オープン
2038年度	新研究棟オープン

VII 経営形態

経営の一層の効率化を推進し、地方独立行政法人化を含めて、経営形態を検討